

小門裕幸教授、宮城まり子教授退職記念

小門裕幸教授、宮城まり子教授 のご退職にあたって

法政大学キャリアデザイン学部長 武石 恵美子

本学部で教鞭をとられてきた、小門裕幸教授、宮城まり子教授が、ご退職されることとなりました。先生方のご活躍と学部への多大なる貢献に対して、感謝の言葉を述べさせていただきます。

○小門 裕幸 教授○

小門裕幸教授は、1998年にエクステンションカレッジ長として法政大学に着任され、その後2003年に本学部が創設された時期から今日まで15年間にわたって、学部での教育やご専門の研究に貢献いただきました。また、本学大学院政策創造研究科においても教鞭をとられるなど、学部を超えて幅広くご尽力をいただきました。

小門先生は、大学をご卒業後、日本開発銀行（現日本政策投資銀行）において、国際金融をはじめ、経済調査、企業分析・融資業務や、まちづくり・地域振興、ベンチャー企業の支援など、幅広い分野にかかわる仕事に携わられました。ご専門はベンチャー企業論、地域経営論で、現場に根ざした課題意識が、学生の教育に色濃く反映されておられます。特に国際的な視点、ベンチャースピリットの重要性を繰り返し学生に伝えてこられ、先生の熱い思いに心を動かされた多くの学生が、ベンチャースピリットをもって学部から社会に巣立っていきました。

日本で「キャリアデザイン」を冠する学部は現時点で唯一本学部のみで、「キャリアデザイン学」を既存の学問との関係でどのように位置づけるのかは、

私たち学部教員にとって大きな挑戦ですが、近年の先生の研究のご関心は、まさに「キャリアデザイン学の体系化」という点にありました。キャリア研究は、労働市場が流動化しており、個人がキャリアを切り拓くことが重視されるアメリカで発展した理論が多いのですが、そうしたキャリア研究の蓄積の多いアメリカでのご経験を踏まえて、日米の文化・経済システム・経営風土の比較研究をベースに、日本におけるキャリアデザイン学の構築に向けて精力的にご研究をされておられます。キャリアデザイン学の必要性を常に意識して体外的な発信をしていただくと同時に、本学部の今後につながる課題提起も折に触れてしていただきました。

キャリアデザインで自己変革することが社会変革につながるという先生のご主張、さらにキャリアデザインの行動原理としてアントレプレナーシップやシティズンシップを重視するお考え（詳細は、ご著書の『アントレプレナーシップとシティズンシップ（キャリアデザイン選書）』（法政大学出版局））は、自律的なキャリアデザインが求められる最近の日本社会の状況の中でより重要性を増していくものと考えております。キャリアデザインに必要な行動原理は、先生が学生に向き合う教育活動においてもその重要性を学生に力説されてこられました。

ゼミ活動では学生にビジネスコンテストに挑戦させるなど、学生の自主性、自律性の涵養に努めていただきました。また、本学部における特徴的なカリキュラムである「体験型授業」をご担当いただくなど、学生が職場経験を通じた学びを深めるインターンシップに精力的に取り組んでいただきました。

研究や教育に、常に前向きに熱い思いで取り組まれ、学部創設期から今日までの学部の発展に力を注いでいただいたことに、心より感謝申し上げます。「キャリアデザイン学」は発展途上ですが、日本社会の構造が大きく変革する中で個人は何をすべきか、何ができるのかについてご意見をいただくなど、今後も本学部に対してのご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

○宮城 まり子 教授○

宮城まり子教授は、2008年に本学部教授に着任され、その後10年間本学のためにご尽力いただきました。先生のご専門は臨床心理学で、中でもキャリアアカ

ウンセリング研究の第一人者でいらっしゃいます。

先生は、臨床心理士として東邦医科大学病院をはじめ病院等で臨床活動に従事された後、2000年にアメリカ・カリフォルニア州立大学大学院に研究留学をされ、キャリアカウンセリングに本格的に取り組まれるようになりました。日本では、個人が生涯を通じて「キャリア」に向き合う、ということがまだまだ浸透していなかったときに、個人のキャリアを支援するキャリアカウンセリングをご専門にされました。近年になり、わが国でも雇用を取り巻く環境が変化する中で、キャリアカウンセリングが政策的にも重要性を増してきており、まさに先生のご専門領域が社会の中で求められる時代となったといえます。

先生は、日本産業カウンセリング学会の会長を務められた後、現在は名誉会長としてご活躍をされており、まさに、わが国の産業カウンセリングの先駆者そして第一人者として、この分野をリードしてこられました。本学部のカリキュラムにおいて、「キャリアカウンセリング」は中核となる領域であります。この授業を、先生にご担当いただけたことは、学部学生にとって非常に幸運だったといえるでしょう。

本学部の「キャリアデザイン」は、自分のキャリアをデザインするにとどまらず、他者のキャリアを支援すること、支援できることを重視しており、また他者支援を通じて自身のキャリア形成を考える契機にするということも期待しています。先生が学生に教授していただいたキャリアカウンセリングの基礎知識やカウンセリングスキル、その前提としてのカウンセリングマインドの体得は、学生が社会人となって多様な他者と接していく中で、不可欠な能力であると考えます。

また、先生には、大学院教育においても、2015年度から16年度までキャリアデザイン学研究科長を務めていただきました。本研究科は、ほぼ全員が社会人学生で、企業や学校でキャリア支援に関わる学生が入学しますが、キャリアカウンセリングは、学生の業務内容や関心にかかわらず横断的に有用な専門領域であることから、多くの学生が宮城先生の授業でキャリア理論やカウンセリングの実践を学び、他専攻からも多くの学生が履修しました。全国の講演等で著名な先生のご専門やお人柄に魅力を感じた社会人の方が、本研究科を希望し入学されています。社会人学生は、大学院での学びや研究を現場で活かしてくれ

8 法政大学キャリアデザイン学部紀要第15号

ていますが、学生の学びを通じて、そのご専門がまさに現場のキャリア支援につながっているといえます。

さらに先生には、2012年度、13年度に本学キャリアセンター長として、学部学生にとどまらず、本学学生のキャリア支援にもご尽力をいただきました。キャリアセンターでは、学生の父母の方々に対しても就職活動の現状をお伝えいただくセミナーを開催されるなど、幅広い視点からキャリアセンターの運営にご尽力くださいました。

先生には、キャリアカウンセリングという重要な分野で本学部の教育、研究を牽引いただきましたことに、心より感謝申し上げます。今後も広い視点から本学部へのご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。